

経済性の評価について

（第2回意見調整委員会 整理番号①「事業の実行性」関連）

◆彦名校区自治連合会の意見

- 中間処理施設と最終処分場を合わせた経済合理性について、組合の説明では、「彦名町に中間処理施設、新山・陰田町に最終処分場を整備した場合と、尾高・日下に両方の施設を整備した場合、前者のほうが20年間に約10億円経済的に優れる。」とのことであった。しかし、最終処分場は新山・陰田町が選定されたので最終処分場が同じならそのような差にはならず、彦名町のほうが20年間で4億6千万円の差で優位になると思う。
- さらに、彦名町の建設候補地における地盤改良、杭打ち及び新たな進入路の設置の経費を考慮してもなお、彦名町に経済的な優位性があるのか。

経済性の評価について

◆鳥取県西部広域行政管理組合の見解

1. 彦名町に中間処理施設、新山・陰田町に最終処分場を整備した場合と、尾高・日下に両方の施設を整備した場合の経済合理性を比較した理由について
 - 用地選定方針における候補地の抽出条件では、最終処分場は、中間処理施設と同一敷地内又は近隣での設置を目指すこととなっていた。
 - 用地選定委員会においては、中間処理施設の第一順位を彦名町地内、最終処分場の第一順位を新山・陰田町地内とされたことにより、同一敷地内又は近隣での設置とはならなかった。
 - そこで、同一エリアで中間処理施設と最終処分場を整備する場合の経済合理性を確認するために、彦名町に中間処理施設、新山・陰田町に最終処分場を整備した場合と、尾高・日下に両方の施設を整備した場合の経済合理性を比較したもの。

【同一エリアで中間処理施設と最終処分場を整備する場合の経済合理性の確認】

米子市彦名町地内に中間処理施設を、米子市陰田町地内に最終処分場を整備した場合と、米子市尾高・日下地内に2つの施設を整備した場合の経済合理性を比較すると、前者の場合が経済性に優れることを確認した。（20年間でおよそ10億円）

（単位：千円／20年）

整備施設	項目	米子市彦名町地内①	米子市尾高・日下地内②	差引①－②
中間処理施設	インフラ整備費	2,392,022	2,616,606	△ 224,584
	施設整備費(造成費)	1,036,377	639,687	396,690
	収集運搬費	11,967,420	12,600,440	△ 630,020
	小計	15,395,819	15,856,733	△ 460,914
		米子市新山・陰田町地内①	米子市尾高・日下地内②	
最終処分場	インフラ整備費	158,281	113,384	44,897
	施設整備費(造成費)	4,411,345	5,173,811	△ 762,466
	収集運搬費	495,720	430,420	65,300
	小計	5,065,346	5,717,615	△ 652,269
合計		20,461,165	21,574,348	△ 1,113,183

- 彦名町に中間処理施設、新山・陰田町に最終処分場を整備する場合と、仮に、尾高・日下に中間処理施設、新山・陰田町に最終処分場を整備した場合の経済性を比較した場合、彦名町のほうが20年間で約4億7千万円経済的に優位となる。

(単位：千円／20年)

整備施設	項目	米子市彦名町地内①	米子市尾高・日下地内②	差引①－②
中間処理施設	インフラ整備費	2,392,022	2,616,606	△ 224,584
	施設整備費(造成費)	1,036,377	639,687	396,690
	収集運搬費	11,967,420	12,600,440	△ 630,020
	小計	15,395,819	15,856,733	△ 460,914
		米子市新山・陰田町地内①	米子市新山・陰田町地内②	
最終処分場	インフラ整備費	158,281	158,281	0
	施設整備費(造成費)	4,411,345	4,411,345	0
	収集運搬費	495,720	501,800	△ 6,080
	小計	5,065,346	5,071,426	△ 6,080
合計		20,461,165	20,928,159	△ 466,994

2. 二次評価における経済性の評価

【経済性に係る評価項目及び評価基準（中間処理施設）】

- 経済性については、二次評価において、インフラ整備費、施設整備費（敷地造成費）及び運搬費を評価項目として、あらかじめ設定されていた評価基準に基づいて評価された。
- 敷地造成費に地盤改良の経費は含まれている。
- 幹線道路から施設までの取付道路の整備費については、用地選定の段階では最も合理的なルートとして、既存の市道下彦名西13号線を改良することを想定した経費を見込んで経済性の評価を行った。

【最終候補地別の概算コスト（中間処理施設）】

- 概算コストを比較すると、彦名町は、尾高・日下と比べて施設整備費は高額となるが、経済性の総合評価においては、彦名町は尾高・日下と比べ、インフラ整備費や収集運搬費が低額となるため、合計で約4億6千万円、経済性に優れている。

【経済性に係る評価項目及び評価基準（中間処理施設）】

基本評価項目	評価区分	評価項目	設定理由	評価項目配点	評価基準
経済性	経済性	インフラ整備費 施設整備費 運搬費	<p>インフラ整備費、施設整備費、運搬費（20年間）については、施設の立地場所によって大きく変動する。候補地選定にあたっては、費用の削減が可能な立地が適当であるため設定。</p> <p>次の各費用の合計事業費を算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インフラ整備費 搬入道路新設（改良）費、水道敷設費、電気敷設費 ○施設整備費 敷地造成費 ○運搬費（20年間） 市町村からの収集運搬費 	40点	得点 = 配点40点 × 最低事業費 / 対象事業費

【最終候補地別の概算コスト（中間処理施設）】

（単位：千円／20年）

項目		彦名地内 ①	尾高・日下地内B ②	差引 ① - ②
インフラ整備費		2,392,022	2,616,606	△ 224,584
	（うち道路整備費）	(46,823)	(91,006)	
施設整備費 （造成費）	伐採・除根		14,110	
	土工	255,437	62,410	
	法面工	18,655	40,448	
	地盤改良（表層改良）	163,687	77,120	
	排水施設工	211,987	206,970	
	諸経費・消費税	386,611	238,629	
	小計	1,036,377	639,687	396,690
収集運搬費		11,967,420	12,600,440	△ 633,020
計		15,395,819	15,856,733	△ 460,914

(参考) 基礎杭を考慮した経済性の試算

- 基礎杭の施工費は、敷地造成費に含まれていないが、第7回用地選定委員会において、基礎杭の施工費を考慮した場合の経済性について確認されている。
- 基礎杭の施工費を含めた経済性による評価点を試算し、基礎杭の施工費を含まない経済性の評価点と比較したところ、大きな違いはなく、一次評価と二次評価を合わせた総合評価点の順位に変動はない。

(参考)

【基礎杭の工事費を考慮した概算コスト】

(単位：千円/20年)

施設配置案	二次評価（経済性）における概算コスト				参考	
	インフラ整備費	施設整備費	収集運搬費	合計 ①	基礎杭 ②	合計 ①+②
尾高・日下A	2,692,352	908,362	12,534,520	16,135,234	246,000	16,381,234
彦名町	2,392,022	1,036,377	11,967,420	15,395,819	941,000	16,336,819
尾高・日下B	2,616,606	639,687	12,600,440	15,856,733	246,000	16,102,733

【基礎杭の工事費を加味した場合の評価点（試算）】

		尾高・日下A	彦名町	尾高・日下B
委員会における 評価	一次評価	136	138	134
	二次評価	57	51	52
	(うち経済性)	(38)	(40)	(39)
	計	① 193	② 189	③ 186
基礎杭の工事費 を加味した場合	一次評価	136	138	134
	二次評価	58	50	53
	(うち経済性)	(39)	(39)	(40)
	計	① 194	② 188	③ 187